

員一同ヲ代表シ、茲ニ哀悼ノ微意ヲ披瀝致
シタイト存ジマス

故宮澤君ハ宮城縣ノ御出身デアリマシ
テ、明治十一年四月宮城郡多賀城村ニ出生

セラレタノデアリマス、明治三十六年日本

法律學校ヲ御卒業ニナリ、司法官ヲ志シテ

盛岡、宇都宮、栃木、仙臺ノ各地方裁判所

ノ判事ヲ歴任セラレマシタ、大正九年御退

職後ハ在野ノ法曹トシテ活躍セラレ、仙臺

辯護士會會長タルコト二回、宮城縣會議員

ニ當選セラルコト四回、次デ昭和六年第

十七回衆議院議員總選舉後ノ普選最初ノ補

關選舉ニ際シ、宮城縣第一區ヨリ選バレ本

院議員トナラレタノデアリマス、爾來當選

五回、在職七年十箇月ニ及ビ、克ク國政審

議ノ重責ニ膺リ、衆望ヲ擔ハレテ今日ニ至

ツクノデアリマス、其ノ間君ハ東北振興調

查會及ビ度量衡制度調查會等ノ委員ヲ仰付

ケラレマシテ、國家憲政ノ爲ニ盡サレマシ

タコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、

又君ハ地方自治ノ爲ニ盡瘁セラレ、殊ニ東

北地方ノ疲弊困憊ヲ深ク憂慮セラレ、夙ニ

是ガ振興ノ必要ナルヲ力説シ、同志ト共ニ

東北振興同盟ヲ結成シ、以テ其ノ實現ニ努

カシ、或ハ治水ニ、或ハ產業ニ、或ハ交通

ニ、一身ヲ效シテ各種事業ノ達成ニ貢獻セラ

レタル功績亦尠クナカツタノデアリマス、

君ハ資性篤實ニシテ情義ヲ重ンジ、先輩ニ

信任厚ク、又常ニ後進ノ誘掖ヲ怠ラズ、其ノ

信望極メテ厚クアツタノデアリマス、然ル

ニ本期議會ニ應召セラレ、熱心ニ國政審議

ノ任務ヲ盡サレテ居タノデアリマスガ、俄

ニ病ニ罹ラレ、治療ノ效ナク、遂ニ不歸ノ

客トナラレマシタ、斯クテ本議場ニ於テ君

ト相見エルコト能ハザルハ、誠ニ痛惜禁ジ

難キモノガアリマス、仍テ衷心ヨリ哀悼ノ

誠意ヲ表スル次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 内ヶ崎君提出ノ動議

ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認ヌマ

ス、仍テ動議ハ可決セラレマシタ——茲ニ

議長ノ手許ニ於テ起草シタル弔詞ヲ朗讀致

シマス

衆議院ハ議員正七位勳四等宮澤清作君ノ

長逝ヲ哀悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス

此ノ弔詞ノ贈呈方ハ議長ニ於テ取計ヒマス

(拍手起ル)

○議長(小山松壽君) 日程第一乃至第三ハ

便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌ

○議長率法中改正法律案(政府提出)

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス

第十七條ノニヲ左ノ如ク改ム

一七ノ二 稲、黍及稗

二 其ノ他

一 稲

每百斤

○五〇

稅

第二十一號第四項中「每百斤」ヲ削リ「〇・六五」ヲ「無稅」ニ改ム

第二十三號中「每百斤」ヲ削リ「〇・五〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二十四號中「每百斤」ヲ削リ「〇・五〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二十七號ノ一中「從價」ヲ削リ「一割」ヲ「無稅」ニ改ム

第九十七號中「蓖麻子油」ヲ「ヒマシ油」ニ改メ同號第一項中「每百斤」ヲ削リ「一・一・一〇」

ヲ「無稅」ニ改ム

第一百三號中「每百斤」ヲ削リ「一・一・五」ヲ「無稅」ニ改ム

昭和七年法律第四號中改正法律案

昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス

別表輸入稅表番號第十九號ノ項ノ次ニ左

ノ一項ヲ加フ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第四號中改正法律案

昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス

別表輸入稅表番號第十九號ノ項ノ次ニ左

ノ一項ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時陸軍材料資金特別會計法

案、日程第一、昭和七年法律第四號中改正法律案、日程第二、昭和七年法律第四號中改正法律案、日程第三、臨時陸軍材料資金特別會計法

ス、仍テ日程第一、關稅定率法中改正法律案、日程第二、昭和七年法律第四號中改正法律案、日程第三、臨時陸軍材料資金特別會計法

案、日程第一、關稅定率法中改正法律案、日程第二、昭和七年法律第四號中改正法律案、日程第三、臨時陸軍材料資金特別會計法

上ニ、冬季ニナルト積雪頗ル多イ、殊ニ北陸四縣ノ如キニ至ツテハ、世界ニ稀ナル降雪量ニアリマスガ、是ハ雪ニ御經驗ノナイン方ハ想像モ及バヌ程ノ量ニアリマス、毎年十二月中旬カラ翌年ノ四月マデハ雪ニ閉サレテ居リマス、五月ニ至ツテモ山間地方ハマダ消エマセヌ、現ニ昨年五月大藏省ノ湯池事務官ガ、雪害地方觀察ニ行カレマシテ、ヤリマシタ、ソレデモ尙ホ或ル部分ハ自動車ガ通ズルコトガ出來ナイノデ、古曇ヲ敷イテ其ノ上ヲ自動車デ通シタト云フ實況ナノ雪ガ多イノデ、青年園ナドガ出テ雪掘リヨ私ノ郷里新潟縣東頸城郡ニ赴カレタノハ五月ノ中旬デアリマスガ、尙ホ所ニ依ツテハヤリマシタ、ソレデモ尙ホ或ル部分ハ自動車ガ通ズルコトガ出來ナイノデ、古曇ヲ敷イテ其ノ上ヲ自動車デ通シタト云フ實況ナノ雪ガ多イノデ、ソレニ依ツテ如何ニデアリマス、斯様ニ雪ガ多イノデ、ソレガ爲如何ニ交通ヲ妨ゲ、如何ニ生活ヲ脅シテ居ルカト云フヤウナコトニ付テハ、私事實ヲ申上げマスルカラ、ソレニ依ツテ如何ニ積雪ガ多イカト云フコトヲ御想像願ヒタイノデアリマス

私ハ高田市デアリマスガ、高田市ハ昔カラ雪デハ有名デアリマス、各戸ハ道路ニ面シテ皆庇ヲ出シテ居マシテ、其ノ庇ノ下ガ通路ニナツテ居リマス、雪ガ積レバ外ガ通レナイノデ、雁木下ト稱シテ居ル其ノ庇ノ下ノ通路ヲ歩イテ居ルノデアリマス、サウシテ地上ニ降ツテ積る雪ノ多イ所へ屋根ノ上カラ墜ス雪ガアルノデ、段々積重ツテ、二階建ノ家ヨリモ高クナルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、其ノ高イ所へ雪道ヲ造ツテ櫈ナドデ通ルノデ、動モスルト道ノ上カラ二階へ人ガ落チテ來ルコトガアリマス、沟ニ話ノヤウナコトデアリマスガ、事實デアリマス、隨テ向ヒ側ノ家ガ見エナイ、ドツツテ櫈ナドデ通ルノデ、動モスルト道ノ上ウシテ向ヒ側へ行クカト云フト、三四町隔テテ雪ノ隧道ガ掘ツテアル、其ノアリマス、隨テ向ヒ側ノ家ガ見エナイ、ドツツテウシテ向ヒ側へ行クカト云フト、三四行クト云フノデアリマスカラ、如何ニ

不便デアルカガ此ノ一事ヲ以テ想像サレマス、又電信線、電話線ヲ跨イデ通ルノデアリマスカラ、是ハ雪ノ降ラヌ處デハ想像モ付キマスマイ、其ノ位ナ豪雪デアリマス故、中々容易ナコトデハアリマセヌ、今私ハスク事實ヲ申上ゲタカラ、成程雪ガ多イト云フコトヲ多少御想像下サルト思ヒマスガ、農村ノ小學校ノ如キハ、兒童ガ通フ時ニ道ヲ造ツテヤツテ學校へ通ハセル、ソレカラ又小學校デハ一年生、二年生、三年生位マデハ、分教場ヲ各地ニ設ケテ教育ヲシテ居ルノデアリマス、更ニ雪下シニ付テハ、各村小學校デハ少クトモ年ニ一千圓カラ二千圓ノ除雪費ガ掛ルノデアリマス、斯様ナ譯デアリマスルカラ義務教育費國庫負擔ハ、積雪ノ多い地方ヘ餘計支出スルト云フコトガ當然ダト思ヒマス、ソレカラ各戸ニ於ケル年々ノ除雪費ト云フモノハ多大デアツテ、之ヲ雪ノ降ラヌ地方ト比マスト、思ヒモ依ラヌ負擔ニナツテ居ル譯デアリマス、一體裏日本、殊ニ北陸四縣ノ雪ノ質ハ水分ヲ含ンデ居ツテ重量ガ重イノデス、ソレガ爲ニ雪害ガ餘計多イノデアル、其ノ雪害ノ一斑ヲ申シマスレバ、先づ自分ノ庭木ハ倒サレル、果物ノ木ハ倒サレル、林木モ倒サレル、サウシテ往々家ガ倒潰スルコトガアル、爲ニ人畜ノ死傷少カラナイ場合モアル、殊ニ雪溶ケノ時ニナリマスルト、丁度其ノ頃ハ又雨ガ降ツタリナドシマシテ、俄ニ水ガ出テ來ル、サウシマスト其ノ爲ニ洪水ニナツテ、或ハ田畠ヲ流シ、或ハ橋梁ヲ破壊シ、或ハ堤防道路ヲ破壊シテ、頗ル害が多い、殊ニ山間地方ニナリマスルト雪崩ガアリマシテ、ソレガ爲家屋ヲ破壊シ、道路、橋梁ヲ破壊シマス、斯様ナ譯デアリマシテ雪崩ハ其ノ勢中々侮ルベカラザルモノアル、ソレカラ農家デハ雪中馬ヲ外ヘ出スコトハ出來マセヌ、雪ノ中デスカラ馬小屋ニ繋ギ通シテ置ク爲ニ、馬ハ軟骨病ニ罹

ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナコトハ到底降雪地帶デナケレバ分ラヌコト思フノデアリマス、農家バカリデハアリマセヌ、商工業者ニ取りマシテモ、原料ナリ製品ナリノ運搬ガ非常ニ困難ヲ極メル、隨々費用モ掛カル、又除雪費モ掛カル、斯様ナ譯デ、之ヲ雪ノ降ラナイ地方ト比べマスルト非常ナ相違デアリマス、農家ハ二毛作ハ出來ナイ、雪ノアル間ハ家ノ中ニ閉籠ツテ居リマス、働ク仕事ハ無イ爲ニ收入ハ少ク、支出ハ多ク、洵ニ二重ノ負擔ニ苦シム次第デアリマス、年百年中外ヘ出テ働ケル所ノ農村ト、一箇年ノ三分ノ一ハ家ニ閉ザサレテ、三分ノ二ガ漸ク働クカ働カ又カト云フ地方ト比較シテ見レバ、國家トシテハ總テノ點ニ於テ考ヘテヤラナケレバナラヌ、負擔ノ點カラ申シマスレバ、國家ニ對スル租税ハ、殆ド一律一體デアツテ、雪國デアルガ爲ニ除外サレルト云フコトハナイ、故ニ政府ハ明年度ニ於テ負擔ノ均衡ヲ主トシタル稅制改革ヲサレルト言フガ、其ノ場合ニハ降雪地方ノ負擔ノ均衡ト云フコトニ對シテ、深ク考慮ヲ拂ハレンコトヲ要望致シマス

又災害復舊工事ニ對シマシテ、内務省ノ認可許可ノ指令ガ遅レルト云フコトガ、是亦非常ニ迷惑致シテ居リマス、殊ニ第二豫備金支出ノ場合ナドニナリマスルト、其ノ支出サレタ金ハ年度内ニ使ハナケレバナラヌ、翌年度ヘ持越スコトノ出來ナイガ爲ニ、工事ヲ夜ヲ日ニ繼イデ無理ニ仕事ヲスル結果、不完全ナ工事トナツテ再び災害ヲ起シ易イ、又縣廳カラ工事ノ認可許可ヲ受ケルモノガ、何時デモ十月頃ニナツテシマニ、工事ヲ夜ヲ日ニ繼イデ無理ニ仕事ヲスル結果、不完全ナ工事トナツテ再び災害ヲ起シ易イ、又スカト云ヒマスルト、モウ十二月カラハ雪ガ降ルノデアリマスルカラ、餘程慌テテ急イデ工事ヲシナケレバナラヌ、其ノフノデアリマス、サウスルトドウ云フ結果急イデ工事ヲスルガ爲ニ、兎角粗漏ニ流レテ、折角修繕シタ後ヲ更ニ又壞ハサレテシ

〔加藤知正君登壇〕

マフト云フ憂ガアルノデアリマス、故ニ雪
害ノ地方ニ限ツテ、特ニ認可許可ハ必ズ早
クサレンコトヲ特ニ要望シテ置キマス、政
府ニ於テモ無論雪害地方ニ對シテ理解ガア
ルトハ思ヒマスルケレドモ、ドウモ其ノ點
ガ甚ダ不徹底デアルコトヲ憂ヘテ居リマス、
同ジク日本國民ニ生レテ、等シク立憲政治
ノ下デ生活シナガラ、降雪地方ト然ラザル
地方トハ非常ナ差ガアリマス、政府ハ此ノ
雪害ニ惱シニ居ル地方ノコトヲ深ク考ヘラ
レマシテ、雪害ニ對スル豫防救濟等ニ關シ、
根本的對策ヲ立テラレンコトヲ切ニ要望ス
ルノデアリマス、以上ヲ以チマシテ提案理
由ノ説明ト致シマス、何卒滿場一致御賛成
アランコトヲ願ヒマス（拍手）
○議長（小山松齋君） 是ヨリ討論ニ入りマ
ス、通告順ニ依リ發言ヲ許シマス——加藤

凶年ノ兆デアルト爲シ、先づ以テ此ノ善
ニ相成ツタノデアリマス、併シナガラ諸君
中々諺ノ改造位デハ、到底吾々ハ満足スル
コトガ出来ナイノデアリマス、實際降雪地
方ニ於テ雪ノ爲ニ被ムル損害ハ、年々巨額
ニ達スルノデアリマシテ、降雪ノ人ノ衛生
上、健康上ニ及ボス有形無形ノ被害ニ至リ
マシテハ、全ク想像ノ外ニアルト言ツテモ
決シテ過言デハナインデアリマス、眼病ヤ
呼吸器病、風邪、流感等ハ、全國共通ノ疾
病デハゴザイマスケレドモ、年々三四箇月乃
至半年以上雪ニ閉籠メラレテ、陰鬱ナ室
内ニ蟄居スル裏日本ノ人々、雪踏ノ通フ小
學兒童ニ、特ニ眼病、呼吸器病、流感等ノ
多イコトハ、爭フコトノ出來ナイ事實ニア
リマス、是ガ爲ニ貴重ナ時間ト無用ノ冗費
トヲ費スバカリデナク、其ノ衛生上、健康上
ニ於テ憂慮スベキ状態ニ在ルコトハ、是亦
全ク想像ノ外ニアルノデアリマス、其ノ他
道路、堤防、林木、果樹園、一般農產物等
ニ及ボス所ノ經濟上ノ損失、年々其ノ幾許
ナルヲ知ラズシテ、家屋ノ倒壊、雪崩等ノ
爲ニ年々人命ヲ損ズルコトモ亦頗ル多イノ
デアリマス、雪ノ降ラナイ國デハ二毛作三
毛作ガ出来マシテモ、雪國デハ絶對ニソレ
ガ望メナイノデアリマス、此ノ一點ダケデ
モ其ノ生活上ニ餘裕ヲ得ラレヌコトハ、大
抵御推察ガ出来ルコト思フノデアリマス
故ニ吾々ハ多年此ノ問題ニ付テヤカマシク
論議致シテ居リマスルケレドモ、未ダ以テ
政府ハ何等見ルベキ所ノ施設ヲ致シテ吳レ
ネイノヲ、私ハ深ク遺憾ニ思フ者デアリマ
ス(拍手)勿論近年ノ降雪被害ニ對シマシテ
ハ、政府ニ於キマシテモ急対策トシテハ
殆久對策ニ至リマシテハ、殆ド一指ダモ染
ソレドヽ救濟資金ヲ提出シテ吳レマシタカ
ラ、決シテ雪ニ對シテ何等ノ同情心
ガナイトハ申上ゲマセヌ、併シナガラ是ガ

メテ居ナイト申上ダガナケレバ相成ラヌノデ
アリマス、此ノ恒久対策ニ根本的ノ解決ヲ
與ヘテ貰ハナケレバ、降雪地方ノ人々ハ絶
對ニ浮ベレナインデアリマス(拍手)斯クテ
ハ雪國ノ人々ハ天ヲ怨ミ、地ヲ怨ミ、政府
ヲ怨ミ、役人ヲ怨ミ、怨ミ怨ンデ怨ミ抜イテ、
遂ニハ自分ガコンナ處ニ生レタノガ不仕合
セデアツタト、自己ノ薄命ヲ怨ンデ悶心ス
ルヨリ外ニ方法ハナイコトニナルノデアリ
マス(拍手)政府ハマサカニソレヲ見テ喜ン
デ居ラルル譯デモナカラウト考ヘルノデア
リマス、諸君、表日本、雪ノ降ラナイ國ノ
人々モ陛下ノ赤子デアリ、裏日本、降雪ニ
惱マサルル人々モヤハリ陛下トノ赤子デア
リマスル以上ハ、政府ニ於テモ特ニ降雪地
方ノ人々ニ對シ、一視同仁ノ取計ガアツテ
然ルベキモノデハゴザイマスマイカ(拍手)
果シテ然ラバ降雪地方ニ對シ如何ナル施設
ヲ爲スベキデアリマセウカ、今茲ニ降雪地
方ノ人々ノ政府ニ對シテ要望致シテ居ル點
ヲ列舉シテ見タイト存ズルノデアリマス
先づ第一ニ財政其ノ他ノ施設ニ對シマシテ
ハ、一、地租其ノ他ノ諸公費ノ低減、二、
市街地ノ降雪ニ對シ國庫助成金ノ交付デア
リマス、第二ニ衛生施設ニ對シマシテハ、
醫療救護ノ施設デアリマス、第三ニ教育施
設ニ對シマシテハ、一、義務教育費國庫下
渡金ノ増配、二、積雪ノ爲ニ特ニ要スル教
育施設費ニ對シ國費ノ助成金、三、小學校
舎ノ除雪費ニ對スル補助金ノ交付デアリ
マス、第四ニ交通及ビ土木施設ニ對シテハ、
一、交通被害ノ防止策、二、道路橋梁其ノ
他ノ工作物破損ニ對シ適當ナル對策ヲ講ゼ
ラレタイト云フコトデアリマス、第五ノ產
業施設ニ對シマシテハ、降雪ト農産物トノ
關係ヲ明ニ致シ、徹底的ニ其ノ被害ヲ除去
スル爲ニ、調査研究ノ機關ヲ完成セラレタ
イト云フノデアリマス

ル降雪地方ノ人々ノ切ナル要望デアリ、血ノ叫ビデアルコトガ、今回此ノ決議案トナツテ現ハレタノデアリマス(拍手)何卒満腔ノ御同情ヲ以テ全院一致御協賛アランコトヲ切ニ御願致シマシテ、私ハ此ノ決議案ニ賛成ノ意ヲ表シタイト存ズル次第アリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 三宅正一君

○三宅正一君 簡單デアリマスカラ此ノ席カラ……

○議長(小山松壽君) 登壇ヲ望ミマス

(三宅正一君登壇)

○三宅正一君 只今御上程ニナリマシタ決議案ニ付キマシテ、極ク簡単ニ賛成ノ意意思ヲ表示致シマシテ、政府並ニ全員ノ御同情ヲ御願スル次第デゴザイマス、吾々ガ一寸日本ノ情勢ヲ考へテ見マシテモ、表日本ニ於キマシテハ、東京ヲ初メト致シマシテ、百万以上ノ大都市ト云フモノハ澤山出來テ來テ居ルノデアリマス、五十万、七十万ノ都市ガ非常ナ殷賑ヲ誇ツテ居リマスル時ニ、日本一帶ニ瓦リマシテハ、金澤ニ致シマシテモ、新潟ニ致シマシテモ、數十年來舊態依然タル二十万以下ノ街デアルト云フコトハ、半年ノ間雪ニ埋レテ居ルト云フコトガ、如何ニ産業ノ發展ノ上ニ裏日本ニ禍シテ居ルカト云フコトノ證據デアルト私共ハ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマス(拍手)裏日本ニ大キナル街ガナク、裏日本ニ立派ナル港ガナク、裏日本ハ日本ニ於ケル窮乏地帶ノ代表デアルト云フガ如キ狀態ノ下ニ置カレテ居リマスル所ニ、私ハ雪害對策ニ對シマスル所ノ、政治ノ不徹底ガアルト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマス、此處ニ文部大臣モ來テ居ラルノデゴザイマスルガ、新潟縣ノ或村ノ如キハ降雪ノ爲ニ子供ガ學校へ通フコトガ出來ナイモデ、一村ニ十一ノ學校ガアリマシテ、高等小學校ニ寄宿舎ヲ作ツテ居ルト云フ狀

ハ、紫雲英ヲ畑ノ裏作トシテ作ツテ居リマス、富山縣ニ於キマシテ
スルガ、百日雪ガ降リマスト是ガ全滅スル
ノデゴザイマス、富山縣ニ於ケル紫雲英ハ
一反ニ付テ千貫モ作ツテ居リマシテ、全國
第一ノ裏作肥料地デゴザイマスケレドモ、
百日雪ガ降レバ是ガ全滅スル、三年ニ一回
ハ是ガ全滅スルノデゴザイマス、若シ政府
ニシテ斯ノ如キ雪害ニ對シマシテ、毎年ノ
救濟ト云フヤウナコトデナクシテ、根本的
ニ雪害ヲ防除スルノ施設ヲ考ヘラレマスル
ナラバ、私ハ相當ナ試驗費用ニ依リマシテ、
紫雲英ノ雪ニ強イ品種ヲ發明スルガ如キコ
トハ不可能デハナイト考ヘルノデゴザイマ
ス（拍手）裏作ガ雪害地帶ニ於テハ出來ナイ
ノデゴザイマスルガ、現ニ新潟縣ノ農事試
驗場ニ於テハ、或ル地帶ニ於キマシテハ、
麥ト米トヲ雪ノ中ニ作ルコトヲ既ニ發明セ
ントシテ居ルノデアリマス、少シク早ク其
ノ收穫ノ穫レマスル麥、而シテ少シ遅ク植
エテモ收穫ノ穫レル米ヲ發明致シマスレバ、
二毛作ガ雪害地帶ニ於テモ可能ナノデゴザ
イマス、國家が相當ナル費用ヲ以テ、産業
ニ對シ、交通ニ對シ、文化ニ對シマシテ、
雪ヲ克服シ、雪ヲ利用スルノ方途ヲ考ヘテ
下サリマスルナラバ、現代ノ科學、現代ノ
知識及び現代ノ技術ハ雪ヲ克服シテ、裏日
本ノ民衆ヲシテ毎年々々雪害ノ救濟ヲ叫バ
シムルノ必要ナカラシメルモノノデアルト私
共ハ考ヘルノデゴザイマス、吾々民衆ガ乞
食ノ如ク助ケテ吳レ、助ケテ吳レト云フ要
望ヲシマスルコトハ、民衆自體ガ望マナイ
所デアルノデゴザイマシテ、此ノ際政府ハ
積極的ニ雪害防除ニ對シマシテ根本對策ヲ
立テラレマシテ、表日本ト裏日本トニ對シ
テ、產業ニ付テモ、交通ニ付テモ、文化ニ
付テモ、經濟ニ付キマシテモ平等ニ、東京
ガ表日本ニ在ルナラバ、裏日本ニモ東京ニ匹
敵スル百万ノ街ガ出來ルダケノ經濟的實力

ヲ與ヘルヤウニ、根本對策ヲ樹立サレマス
ルコトヲ切望致シマシテ、贊成ノ辭ニ代ヘ

タイト考ヘルノデゴザイマス

○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ終局致
シマシタ、採決致シマス、本案ニ贊成ノ諸
君ノ起立ヲ求メマス

(總員起立)

○議長(小山松壽君) 起立總員、仍テ本案
ハ全會一致可決致シマシタ

(拍手起立)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ日程第三十ヲ繰上ゲ上
程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマ
ス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシ

タ——日程第三十、民族優生保護法案、第
一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求
メマス——委員長斯波貞吉君

第三十 民族優生保護法案 (八木逸郎
君外一名提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノ
ト議決致候此段及報告候也

昭和十四年二月十八日

委員長 斯波 貞吉

(別紙)
(小字ハ委員會修正)

衆議院議長小山松壽殿

民族優生保護法案中左ノ通修正ス
却テ優良人種ノ斷種ガ行ハレ、劣悪人種ハ
ノデ、遺憾ナガラ本案ニハ絶對反對デ、今
茲ニ其ノ反對デアル理由ヲ述べセセテ戴キ
マス

本案ノ目的ハ斷種ニ依ツテ劣悪人種ノ絶
滅ヲ期スルノデアリマスガ、本案第四條第
一項、第二項ニ於テ申告制ヲ採リタル爲、
却テ優良人種ノ斷種ガ行ハレ、劣悪人種ハ
其ノ儘ノ繁殖ニ任スト云フ、反對ノ結果ヲ
見ル虞ガアル惡法デアリマス、劣悪人種ト

金ニ處ス
(斯波貞吉君登壇)

○斯波貞吉君 民族優生保護法案委員會ノ
經過及ビ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ

民族ノ優生ヲ保護シタイト云フ、極メテ精
神的ノ立法デアリマシテ、議員ノ提出ニ係ル
モノデアリマスガ、明ニ遺傳性デアルト認

メラレマス疾患者ニ對シマシテ、斷種ヲ實行
シヨウト云フノデアリマス、而モ強制的デハ
ナク、其ノ患者若クハ其ノ關係者ノ申出ニ

依ツテ、之ヲ行ハウト云フノデアリマスルガ、
四回委員會ヲ開キマシテ、質問應答ノ後討
論ニ入りマシテ、種々ノ御意見が出来タノデ
アリマスガ、其ノ結果逐條審議ニ入りマシ
テ、第十四條ノ最後ノ項ニ「故ナク」ト云フ
文字ヲ挿入修正致シマシテ、採決ノ結果此
ノ修正ヲ容レテ、他ハ全部原案ノ通り多數
デ可決致シマシタ、此段御報告申上ゲマス
(拍手)

○議長(小山松壽君) 討論ノ通告ガアリマ
ス、之ヲ許シマス——山川賴三郎君

(山川賴三郎君登壇)

○山川賴三郎君 只今上程ニナツテ居リマ
ス、民族優生保護法案ニ對シ、委員長ヨリ委
員會ノ經過並ニ結果ニ付テ御報告ガアリマ
シタガ、私モ同委員ノ一人デアリマシテ、
本案ニ對シ慎重審議致シマシタガ、民族ノ
優生ヲ希望スル點ニ於キマシテハ、無論反
對ノアルベキ害ハアリマセヌガ、本法律案
ハ不合理ノ點甚ダ多ク、種々ノ弊害ヲ伴フ
ノデ、遺憾ナガラ本案ニハ絶對反對デ、今
茲ニ其ノ反對デアル理由ヲ述べセセテ戴キ
マス

本案ノ目的ハ斷種ニ依ツテ劣悪人種ノ絶
滅ヲ期スルノデアリマスガ、本案第四條第
一項、第二項ニ於テ申告制ヲ採リタル爲、
却テ優良人種ノ斷種ガ行ハレ、劣悪人種ハ
ノデ、遺憾ナガラ本案ニハ絶對反對デ、今
茲ニ其ノ反對デアル理由ヲ述べセセテ戴キ
マス

本案ノ目的ハ斷種ニ依ツテ劣悪人種ノ絶
滅ヲ期スルノデアリマスガ、本案第四條第
一項、第二項ニ於テ申告制ヲ採リタル爲、
却テ優良人種ノ斷種ガ行ハレ、劣悪人種ハ
ノデ、遺憾ナガラ本案ニハ絶對反對デ、今
茲ニ其ノ反對デアル理由ヲ述べセセテ戴キ
マス

本案ノ目的ハ斷種ニ依ツテ劣悪人種ノ絶
滅ヲ期スルノデアリマスガ、本案第四條第
一項、第二項ニ於テ申告制ヲ採リタル爲、
却テ優良人種ノ断種ガ行ハレ、劣悪人種ハ
ノデ、遺憾ナガラ本案ニハ絶對反對デ、今
茲ニ其ノ反對デアル理由ヲ述べセセテ戴キ
マス

ハ、體質上ヨリ見タルモノト、精神上ヨリ
見タルモノトノニツガアツテ、如何ニ體質

ガ良クテモ、精神上ノ異状ヨリ社會ニ害毒

ヲ流スモノハ劣悪デアリ、精神上ノ優良者

デモ、體質ニ於テ遺傳又ハ傳染的病菌ヲ保

持スルモノハ劣悪デアリマス、而シテ精神

上ノ優良者ノ中ニハ、憂鬱性病等ノ爲ニ國

譯デアリマス、之ニ反シ殘忍伝説ノ惡者

ハ、國家民族ノ前途、子孫ノ將來ヲ考ヘ、過

憂ノ結果善人ノ申告者ガ相當ノ數ニ上ルモ

ノト存ジマスノデ、善人ノ斷種ガ行ハルル

レテ、茲ニ善人ヲ斷種シ、惡人ヲ繁殖サセ

ル結果トナルノデアリマス、斷種ハノ不

能者タラシメルモノデ、人間本來ノ幸福ヲ

奪フモノデアリマス、性的機能發達以後ニ

行ヒタル斷種術ハ、其ノ機能ヲ失ハザルノ

ミカ、却テ欲望ヲ旺盛ナラシメ、老人モ若

返ルト言ハレテ居ルガ、老人ノ若返リハ求

ムル人ニ依ツテ結構デアリマセウガ、本案

ノ對象デアル精神的ニ低格ナル、自覺ト節

度ナキ無爲制限者タル若者ニ若返術ヲ授ケ

シ、色情狂者ヲ出シ、性的犯罪者ヲ増加ス

ルノ危險ガ伴フコトニアルノデアリマス、

度ナキ無爲制限者タル若者ニ若返術ヲ授ケ

シテ居ルコトガ即チ人道ナノデアリマス

申告ニ依ル斷種法ハ御家騒動ノ種トナル

處ガアリマス、古今東西ヲ問ハズ、御家騒

動ト云フモノハ隨分多イモノデアリマス、

我ガ國運ノ隆昌ハ種々ノ原因アルベシト雖

モ、其ノ主ナルモノハ人口增加率ノ高イノ

デアルト云フコトハ、何人モ否ム者ハナイ

ノデアリマス、爾來斷種ノ術漸ク發達シ、

之ニ慣レテ避妊ニ應用セントスル者多キニ

至レバ、國家今日ノ隆昌ヲ阻碍スルニ至ル

ベキヲ信ズルモノデアリマス

本案ハ第四條ニ戸主又ハ保護者タルモノノ

獨善的申告ニ依ツテ幼年者ノ斷種ガ行ハレマ

スガ、其ノ斷種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

ヲ殺サヌヤウニシテ、病ヲ治スルコトニ努力

シテ居ルコトガ即チ人道ナノデアリマス

申告ニ依ル斷種法ハ御家騒動ノ種トナル

處ガアリマス、古今東西ヲ問ハズ、御家騒

動ト云フモノハ隨分多イモノデアリマス、

我ガ國運ノ隆昌ハ種々ノ原因アルベシト雖

モ、其ノ主ナルモノハ人口增加率ノ高イノ

デアルト云フコトハ、何人モ否ム者ハナイ

ノデアリマス、爾來斷種ノ術漸ク發達シ、

之ニ慣レテ避妊ニ應用セントスル者多キニ

至レバ、國家今日ノ隆昌ヲ阻碍スルニ至ル

ベキヲ信ズルモノデアリマス

本案ハ第四條ニ戸主又ハ保護者タルモノノ

獨善的申告ニ依ツテ幼年者ノ断種ガ行ハレマ

スガ、其ノ断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

断種者ガ成年シタ時ニ、我身ノ

ハ六〇九

果ヲ御報告申上ダマスガ、本委員會ニハ法律案ガ非常ニ澤山アリマスガ、之ヲ二ツニ分チマシテ、二法案ハ兌換券増發ニ關スル法律案デアリマシテ、他ノ六法案ハ公債發行ニ關スル法律案デアリマス
先づ兌換券發行ノ方カラ申上ダマスガ、昭和十三年法律第六十四號中改正法律案ハ、日本銀行ノ兌換券ノ保證發行限度ヲ、支那事變中ノ臨時ノ處置トシテ、現在十七億圓デアル保證限度ヲ二十二億圓ニ改正シヨウト云フ案デアルノデアリマス、之ニ準ジテ朝鮮銀行ノ兌換券發行ノ保證限度ハ、現在一億圓デアリマスノヲ一億六千万圓ニ増加シ、臺灣銀行兌換券發行ノ保證限度ハ、五千万圓ノモノヲ八千万圓ニ増加セントスル政府提出ノ法律案デアリマス、委員會ハ大藏大臣ノ出席ヲ求メ、全部ノ委員ガ熱心ニ質問シ、大藏大臣カラ應答セラレタノデアリマス、此ノ後ノ案ト一括シテ質問應答方行ハレマシタカラ、其ノ質問應答ノ狀況ハ一括シテ申述ベタ方ガ宜イト存ジマス
其ノ次ニ公債發行ノ六法律案デゴザイマスガ、昭和十三年法律第二十三號中改正法律案ト申シマスノハ、關東州、朝鮮、臺灣、樺太ノ各特別會計ニ於テモ、現在課セントスル各種ノ所得稅、物品稅、其ノ他ノ今次ノ增稅ヲ徵收スルコトニナツクコトハ御承知ノ通リデアリマシテ、既ニ御協賛ヲ經テ居ルノデアリマスガ、其ノ各特別會計ガ收入スル額カラ勅令ノ定ムル所ノ金額ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ル法律案デアリマス、其ノ次ハ昭和十二年法律第八十四號中改正法律案、是ハ臨時軍事費ノ支辨ノ爲ニ起債スル公債ノ法律案デアリマス、此ノ豫算ハ既ニ臨時軍事費トシテ衆議院ニ於テ可決確定シタモノデアリマスガ、其ノ根本デアル歲入ヲ掌ル立法ガ其ノ當時ハ出テ居ラナカツタノデアリマシテ、此ノ法律ニ依ツテ公債發行ノ限度ヲ高メ、此ノ法律ニ依ツテ公

債ヲ發行スル譯デアリマス、所ガ此ノ法律
規定サレテ居リマスノヲ百四億三十万圓ニ
改メル、即チ三十九億二千四百六十万圓ヲ増
加シマセヌト、臨時軍事費公債支辨ガ出來
ナイ譯デアリマスカラ、此ノ法律ヲ必要ト
スル次第デアリマス、更ニ昭和十四年度一
般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行
ニ關スル法律案、即チ本年ノ一般會計ニモ
歳出財源トシテ公債ガ見込マレテ居ルノデ
アリマスガ、是ハ三億六千三百萬圓更ニ公
債ヲ増發スル、昭和七年法律第一號中改正
法律案ハ、滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ
爲ニ三億四千七百六十万圓ノ公債ヲ増發シ
ナケレバナラヌノデ、此ノ法律ノ改正ガ必
要デアルノデアリマス、支那事變ニ關スル
特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關ス
ル法律案ハ、軍人軍屬ノ死殞者ニ交付スペ
キ特別賜金ノ交付公債ノ法律ノ基礎ガマダ
出來テ居リマセヌノデ、此ノ法律ニ依ツテ
交付公債ノ基礎ヲ定メルノデアリマス、尙
ホモウツハ昭和十三年法律第八十七號中
改正法律案、是ハ命令ノ定ムル所ニ依ツテ、
日本ノ國內ニ於テ募集スル外國ノ公債モ日
本ノ公債ト同ジニ認メヨウト云フ法律案デ
アリマス、即チ例ヘバ滿洲國ノヤウナ國ガ
滿洲國ノ公債ヲ日本ニ募ラウト云フ時ニヘ
命令ノ定ムル所ニ依リ許可サレタ場合ニハ、
日本ノ公債ト同ジニ認メヨウト云フ取扱ノ
法律案デアリマス

以上法律案ニ對シ一括シテ質問應答ガ行
ハレタノデアリマスガ、其ノ主ナル質疑ノ
點ヲ申述べマスレバ、此ノ公債ガ非常ニ增
發サレル、而シテ別ニ非常ナ大キナ社債、
政府ノ承認ヲ得タル國策會社ノ社債ガ四十
億以上許可サレテ居ル、此ノ利息ハ社債ノ
方ガ高イノデアルカラ、公債ノ發行ニ對シ
テ支障ヲ來シハセヌカ、此ノ憂ガ非常ニ多
イト云フヤウナ質問ガアツタノデアリマス

ガ、大蔵大臣ハ之ニ對シテ、社債ハ成程四十餘億ノ許可ハ與ヘテアルガ、此ノ社債ハ一度ニ發行スルモノデハナイ、長年ニ亘ツテ發行スルノデアルカラ、現在ノ公債ノ節行ノ保證發行限度ヲ六億以上増加スルコトニナツテ居リマスガ、日本銀行、朝鮮銀行臺灣銀行、殊ニ朝鮮、臺灣銀行ノ支那ニ於ケル活動ノ模様ニ付テソレト、質問ガアリマシタガ、其ノ答辯ニ於テ、此ノ兩銀行ガ中支、北支、南支、殊ニ海南島ニ至ルマダ既ニ出張所ヲ設ケテ活動シテ居ルト云フ答辯ガアリマシタ

左様ナ質問應答ガ多ク行ハレマシテ、故ニ質問ヲ打切りマシテ、本日討論ニ入ツタノデアリマスガ、民政黨ヲ代表シテ大野季員カラ、通貨ト公債、即チ、兌換券ノ増發スルト公債ノ發行ト密接ナル關係ヲ持ツテ居ルノデ、兌換券ヲ増發シ且ツ公債ヲ増發スル爲ニ、惡性「インフレ」ノ起る虞等ガナカドウカ、ソレヲ警戒シテ、本案ニ賛成スルシテ、十分ナル準備ヲ整ヘルベキ必要ガアリマシテ、政友會ヲ代表シテ世耕君カラモ、ヤハリ巨額ノ公債發行ニシテ、市場操作ニ對スル深キ注意ヲ喚起シテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表サレタノデアリマス、更ニ社大黨ヲ代表シテ野溝君ヨリ同様ノ意見ヲ附加ヘラレテ、本案ニ賛成ノ意ヲ表サレタノデアリマシテ、ルコトヲ吳々モ警戒シテ、本案賛成ノ意ヲ表サレタノデアリマス、更ニ社大黨ヲ代表シテ野溝君ヨリ同様ノ意見ヲ附加ヘラレテ、本案ニ採決ノ結果滿場一致本案ヲ可決スルコトニ致シタコトヲ御諒承願ヒタイノデアリマス、何卒委員會決議ノ通り御承認アランコトヲ御願致シマス、茲ニ御報告申上ダムス（拍手）

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認ヌ、仍テ八案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマニキ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通ニ可決セラレムコトヲ望ミマス
○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御用議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メバ、仍テ直チニ八案ノ第二讀會ヲ開キ、詳案全部ヲ議題ト致シマス
昭和十三年法律第六十四號中改正法律案（兌換銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル件） 第二讀會（確定議案）
朝鮮銀行券及臺灣銀行券ノ保證發行限度ノ臨時擴張ニ關スル法律案
第一讀會（確定議案）
昭和十三年法律第二十三號中改正法律案（關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルルコトニ關スル件）
第一讀會（確定議案）
昭和十二年法律第八十四號中改正法律案（支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件） 第二讀會（確定議案）
昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案 第二讀會（確定議案）
昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件） 第二讀會（確定議案）
支那事變ニ關スル特別賜金トシテ交付スル爲公債發行ニ關スル法律案 第二讀會（確定議案）
昭和十三年法律第八十七號中改正法律案（本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ

待遇ニ關スル件) 第二讀會(確定議)
○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマ
セヌ、第三讀會ヲ省略シテ、八案トモ委員
長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

ガ、此ノ九條、十條ノ規定ハ、郡制施行當時ノ規定デアリマシテ、郡制ノ廢止ヲレタ今日デハ、謂ハバ郡制時代ノ遺物デアリマス、仍テ此ノ機會ニ序ニ削除スルト云フ意

○議長（小山松壽）御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、地方
學事通則中改正法律案及ビ青年學校令ニ依
リ就學セシヌラルベキ者ノ就業時間ニ關ス
ル法律案ノ兩案ヲ一括シテ議題ト爲シ、委
員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進メラレ
ンコトヲ望ミマス

衆議院議長小山松壽殿
〔野村嘉六君登壇〕

味ヲ以テ提案サレタノデアリマス
更ニ進ミマシテ第二案ノ青年學校令ニ依
リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關ス
ル法律案、是ハ大變良イ名前ノ法律案デゴ
ザイマス、此ノ要點ハ、勤勞青年ニ對シテ
其ノ心身ノ疲勞ヲ慮リマシテ、之ヲ擁護ス
ル意味合ヲ以チマシテ、工場法ニ於キマシ
テモ、廣義上ニ合テマノキモ、一々度以ト

キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレントコトヲ望ミマス
○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕
○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラマシタ、地方學事通則中改正法律案、青年學校令ニ依リ就學セシスラベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續キヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長野村嘉六君

第一ニ坡方學事處貝第五條ニ「兒童教育事務ト云フコトガアルノデアリマス、今回ノ改正ハ此ノ上三「生徒」ト云フ二字ヲ加入スルノデアリマス、ドウ云フ譯デ此ノ二字ダケヲ加入スルカト申シマスト、兒童ト云フノハ、文部省ニ於テハ通常小學校生徒ヲ指スノデアリマス、ソレ以上ノモノハ生徒ト謂フ、ソコデ御承知ノ通りニ地方ノ田舎ニ參リマスト、假ニ村ニ學校ニ入學スル子供ハ村ノ廣い關係、土地ノ不便ノ關係、其ノ他色々ノ關係等、參ノ寸ノト學校ニ入學

テキ 鉢山洋一がキマシテキ
ノ者ニ對シテハ、櫛ク時間ヲ大體十一時間
トシテ居ルノデアリマス、是ハ申スマデモ
ナクマダ體ガ出來テ居ラヌ者ヲ、十一時間
以上モ勤務ニ從事サセタナラバ、心モ體モ
共ニ疲レル、人道上甚ダ宜クナイコトデア
ル、斯カ云フ理由ニ出來テ居タノデアルガ、
今度青年學校ガ義務制ニナツタ結果、必ズ
入學シナケレバイカヌ、入學シテ學校ニ於
テ頭ヲ使ツテ居ル時間ヲ、若シモ十一時間
以トニ置ケヤウニ致ゾマスト、思ヒヤラノ

案全部ヲ議題ト致シマス
地方學事通則中改正法律案
第二讀會（確定議）
○議長（小山松壽君） 別ニ御發議モアリマス
セヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員
長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）

地方學事通則中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
青年學校令ニ依リ就學セシラルベキ
者ノ就業時間ニ關スル法律案(政府提
出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

トガアル、現在此ノ便利ヲ認メテ、隣村ノ
學校ニ入學サセル制度ガ出來テ居ル、ソレ
ガ即チ第五條ノ兒童教育事務ニナツテ居
レ、斯ガ今度ハ御承印ノ通りニ青手學校方

以外ニ體外ニリニ至ニ一思ひ一ムレ
ル程因ルコトガ出来テ居ル、即チ心身ノ疲
勞ヲ來スノデアル、是ハ人道上又青年ヲ教
育スル上ニ於テモ不都合デアル、斯カ政府
ハ感ジタノデアツテ、青年學校ニ於テ就學
スル時間、即チ一日ニ一時間或は寺ニハ二

業法案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、
提出致シマス、即チ政府提出、司法保護事
其ノ審議ヲ進スラレントヲ望ミマス
○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

一 地方學事通則中改正法律案（政府提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

義務制ニナリマシタ、此ノ勤務學生、即チ
青年學生ノ地方ニ於テ通學スベキ學校ハ多
ク其ノ村ノ學校ヲ利用スルノデアリマス、
サウ致シマスト從來ノ其ノ村ノ小學校ノ生
徒ト同ジ竟遇ニ置カレル、是ニ於テ本案ハ

時間就學スルコトモアルノデアリマス、是等ノ時間ヲ全部十六歳未滿ノ工場法、鑛山法ニ依ツテ制限サレテ居ル十一時以内ニ織込ムト云フ法律デアルノデアリマス、是ハ私ハ當然サウシナケレバナラヌト信ズル次

「異議ナシ」と呼フ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ——司法
保護事業法案、第一讀會ノ續フ開キマス、
委員長ノ報告ヲマヌ——委員長取敢錢

昭和十四年三月十六日
委員長 野村 嘉六
衆議院議長 小山松壽殿

此ノ青年學校ノ生徒ニ對シテモ、其ノ境遇
上ノ不便ヲ除ク爲ニ、生徒ト云フ二字ヲ加
ヘマシテ、小學校兒童ト同様ニ便宜ヲ與ヘ

第デアリマス、詳細ノコトハ速記録ニ就テ
御覽ヲ願ヒタイ、委員會ハ兩案共全員一致
可決致シマシタ、此段御報告致シマス（拍

男君
司法保護事業法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

一青年學校令ニ依リ就學セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律案(政府提出)
報告書

ル目的ガテ、改正が出来タ次第テアルノテ
アリマス、又同法第九條ニハ「郡」ト云フ字
ガ書イテアル、第十條ニハ「郡制」ト云フ字
ガ書イテアル、是ハ問題ハ別デアリマス

○議長(小山松義君)、兩案ノ第一讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

一 司法保護事業法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議致
候此段及報告書也

昭和十四年三月十六日

委員長 牧野 賤男
衆議院議長 小山 松壽殿

(牧野賤男君登壇)

○牧野賤男君 司法保護事業法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス、其ノ法案、所謂免囚保護法ノ内容ハ、一ハ訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者、即チ俗ニ謂フ起訴猶豫トナツタ者、二ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者、三、刑ノ執行停止中ノ者、四、刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者、五、假出獄中ノ者、六、刑ノ執行ヲ終リタル者、七、少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者、是等ノ者ヲ保護指導スル民間ノ經營者ニ對シテ、政府ガ指導監督助成ヲ致スト云フ法律案デアリマス、是等ニ對シマシテ色々重要ナル質問ガアリマシタガ、其ノ主ナル質問トシテ、ナゼ政府自ラ之ニ當ラヌカ、斯ウ云フ質問ガアツクノデアリマスルガ、政府モ自ラ之ニ當ル所ノ必要ヲ認メテ居ルガ、色々ノ事情ニ制セラレテ、其ノ運ビニ至ラナイケレドモ、最モ近キ将来ニ於テ其ノコトヲ實現シタイト考ヘテ居ル、斯ウ云フコトデアルノデアリマス、次ニ若シ政府ガ自ラ此ノ事業ニ當ツタ時ニハ、今民間ノ保護事業ニ當ツテ居る團體ハドウナルカト云フコトニ付テハ、是ハヤハリ政府ガ此ノ仕事ヲ致シテ行ク中ニ於テモ、民間ノ經營ハ必要デアル、ドウシテモ民間ノ手ヲ借りテケレバ和カニ行カナリ關係ガアル、斯ウ云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマス、然ラバ民間ノ此ノ經營ヲ致ス者ハ幾ツアルノカ、斯ウ云フト千二百三十、即チ全國ニ一千三百三十團體保護事業ニ任ズルモノガアルト云フコトデアリマス、之ニ要スル豫算ガ凡ソ四十万圓ト云フノデアリマスルカラ、此ノ事業ノ規模ノ甚ダ大ナラザルコトヲ思ハシムルノデアリマシテ、政府自ラ他日之ニ

當ル時ニハ、モウ少シ憂顧シタモノヲ希望ノ經過竝ニ結果ニ付テ御報告ヲ申上ゲマス、其ノ法案、所謂免囚保護法ノ内容ハ、一ハ訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者、即チ俗ニ謂フ起訴猶豫トナツタ者、二ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者、三、刑ノ執行停止中ノ者、四、刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者、五、假出獄中ノ者、六、刑ノ執行ヲ終リタル者、七、少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者、是等ノ者ヲ保護指導スル民間ノ經營者ニ對シテ、政府ガ指導監督助成ヲ致スト云フ法律案デアリマス、是等ニ對シマシテ色々重要ナル質問ガアリマシタガ、其ノ主ナル質問トシテ、ナゼ政府自ラ之ニ當ラヌカ、斯ウ云フ質問ガアツクノデアリマスルガ、政府モ自ラ之ニ當ル所ノ必要ヲ認メテ居ルガ、色々ノ事情ニ制セラレテ、其ノ運ビニ至ラナイケレドモ、最モ近キ将来ニ於テ其ノコトヲ實現シタイト考ヘテ居ル、斯ウ云フコトデアルノデアリマス、次ニ若シ政府ガ自ラ此ノ事業ニ當ツタ時ニハ、今民間ノ保護事業ニ當ツテ居る團體ハドウナルカト云フコトニ付テハ、是ハヤハリ政府ガ此ノ仕事ヲ致シテ行ク中ニ於テモ、民間ノ經營ハ必要デアル、ドウシテモ民間ノ手ヲ借りテケレバ和カニ行カナリ關係ガアル、斯ウ云フコトヲ申サレテ居ルノデアリマス、然ラバ民間ノ此ノ經營ヲ致ス者ハ幾ツアルノカ、斯ウ云フト千二百三十、即チ全國ニ一千三百三十團體保護事業ニ任ズルモノガアルト云フコトデアリマス、之ニ要スル豫算ガ凡ソ四十万圓ト云フノデアリマスルカラ、此ノ事業ノ規模ノ甚ダ大ナラザルコトヲ思ハシムルノデアリマシテ、政府自ラ他日之ニ

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認ヌマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタキ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレントコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト呼フ者アリ
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認ヌマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタキ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレントコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開

クニ御異議アリマセヌカ

〔別紙〕
衆議院議長 小山松壽殿

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

ス

評價委員ニ對シテハ學識經驗アル者ヲ充テ
ラレルコトハ勿論デアルガ、國民ノ代表署
デアル所ノ貴衆兩院議員ヲモ之ニ加ヘルコ
トヲ希望スルト云フ希望ガアリマシタ、而
シテ詳細ナル所ノ質疑應答——案其ノモノ
ガ重要デアリマシタカラ、委員諸君ハ非常
ニ御熱心ニ質疑應答サレマシタガ、是ハド
ウカ委員會ノ記錄ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタ
イト思ヒマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り確定致シマシタ（拍手）

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、船員保険法案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ

ス 求メ、其ノ審議ヲ進メラレントヲ望ミマ
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ
(「是議案」ノ一、二、三、四、五、六)

○議長（小山松臺君）　御異議ナシト認ヌマ
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、船員保
持云々、第一回トモニ、四月三日

船員保險法案(政府提出)
試驗法案 第一讀會(續)開キマス、委員長
ノ報告ヲ求メマス——委員長眞鍋勝君

第一讀會ノ續(委員長報告)

右ノ本院ニ於テ司決不ヘキモノトシテ請決到
候此段及報告候也

明治十四年三月十六日
衆議院議長小山松壽殿 委員長眞鍋勝

〔眞鍋勝君登壇〕

果ヲ御報告申上げマス、古來海洋ヲ支配スル者ハ世界ヲ支配スルト申シマスガ、是ハ古今東西ノ歴史ニ數シテ明デアリマシテ、

久シキニ瓦ル英國ノ繁榮モ、古クハ西班牙ノ隆盛モ、昔時地中海沿岸諸國ノ隆替モ、海

官報號外

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマ
セヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り
確定致シマシタ（拍手）

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、大正
九年法律第五十三號中改正法律案ヲ議題ト
爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進
メラレントヲ望ミマス

○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、大正九
年法律第五十三號中改正法律案ノ第一讀會
ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマ
ス——委員長菊池良一君

大正九年法律第五十三號中改正法律案
(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等)
朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件(政府提
出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

〔報告書
一大正九年法律第五十三號中改正法律案
(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝
鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提
出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十四年三月十六日

委員長 菊池 良一

衆議院議長小山松壽殿
(菊池良一君登壇)

○菊池良一君 只今上程ニ相成リマシタ大
正九年法律第五十三號中改正法律案、即チ
關稅法、關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝
鮮ニ於ケル特例ニ關スル件ニ付キマシテ、又
委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、又
委員會ハ前後五回開カレマシテ、各委員ヨ
リ熱心ナル質問ガアリマシタ、之ニ對シ政

府ヨリ詳細ナル答辯ガアリマシタ結果、委
員會ニ於キマシテハ全員一致原案ヲ可決
九年法律第五十三號中改正法律案ヲ議題ト
爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其ノ審議ヲ進
メラレントヲ望ミマス

○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、大正九
年法律第五十三號中改正法律案ノ第一讀會
ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマ
ス——委員長菊池良一君

大正九年法律第五十三號中改正法律案
(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等)
朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件(政府提
出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

〔報告書
一大正九年法律第五十三號中改正法律案
(關稅法關稅定率法及保稅倉庫法等ノ朝
鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提
出)

右ニ關スル質疑ノ要點ヲ申上ゲマスルト、
先づ國境河川ニ於ケル架橋計畫、水力發電
工事等ニ付質問ガアリマシタ、之ニ對シ
架橋計畫ニ付キマシテハ、日滿兩國ノ分擔
ニ依リ、工事費約七百八十万圓ノ豫算ヲ以
テ、十四箇所ニ亘り架橋ノ計畫デアリマシ
テ、昭和十六年末マデニハ工事完成ノ豫定
ナル旨ノ答辯ガアリマシタ、又水力發電工
事ニ付キマシテハ、鴨綠江本流ニ於キマシ
テ、總計約百六十五萬「キロワット」ノ電力
ヲ發生セシメ、日滿兩國ニ於テ折半シテ使
用スル計畫デアリマスガ、其ノ第一期計畫
トシテ、目下水豐洞ニ、出力約七十萬「キロ
ワット」ノ發電所ノ建設ニ著手中ナル旨ノ答辯
ガアリマシタ、次ニ本改正案ニ於ケル「其ノ他ノ
設備」ノ意義ニ付キマシテハ、「ケーブル」、水底
隧道等ヲ豫想セル旨、證明ガアリマシタ、又
本改正案ニ依リ免稅ヲ受クベキ物品及ビ
其ノ免稅見込額如何トノ質問ニ對シマシテ
ハ、免稅ヲ受クベキ物品トシテハ、主トシ
テ「セメント」、鐵、木材等ナルモ、發電所
ニ付テハ發電機、水車、調節機等ノ諸器械
ヲ豫想セラレ、其ノ免稅見込額ニ付テハ、

將來幾許ノ輸入ヲ必要トルカ、只今ノ所
之ヲ豫測スルコトガ困難デアリ、隨テ免稅
架設計畫ガ進捗中デアリマス、又鴨綠江本
流ニ於キマシテハ、大規模ノ水力發電工事
ニ著手サレツツアル次第デアリマス、是等
ノ橋梁、水力發電所等ノ設備ガ、其ノ性質
上國境河川ニ跨ツテ構築セラレマスノデ、
是等設備ノ構築材料等ニ付キマシテ、複雜
ナル輸出入ノ關係ヲ生ズルノデアリマスガ、
前述ノ如キは等設備構築ノ趣旨等ニ鑑ミマ
シテ、是ガ構築材料等ニ對スル輸入稅ヲ免
除セントスルノガ其ノ要旨デアリマス
右ニ關スル質疑ノ要點ヲ申上ゲマスルト、
先づ國境河川ニ於ケル架橋計畫、水力發電
工事等ニ付質問ガアリマシタ、之ニ對シ
架橋計畫ニ付キマシテハ、日滿兩國ノ分擔
ニ依リ、工事費約七百八十万圓ノ豫算ヲ以
テ、十四箇所ニ亘り架橋ノ計畫デアリマシ
テ、昭和十六年末マデニハ工事完成ノ豫定
ナル旨ノ答辯ガアリマシタ、又水力發電工
事ニ付キマシテハ、鴨綠江本流ニ於キマシ
テ、總計約百六十五萬「キロワット」ノ電力
ヲ發生セシメ、日滿兩國ニ於テ折半シテ使
用スル計畫デアリマスガ、其ノ第一期計畫
トシテ、目下水豐洞ニ、出力約七十萬「キロ
ワット」ノ發電所ノ建設ニ著手中ナル旨ノ答辯
ガアリマシタ、次ニ本改正案ニ於ケル「其ノ他ノ
設備」ノ意義ニ付キマシテハ、「ケーブル」、水底
隧道等ヲ豫想セル旨、證明ガアリマシタ、又
本改正案ニ依リ免稅ヲ受クベキ物品及ビ
其ノ免稅見込額如何トノ質問ニ對シマシテ
ハ、免稅ヲ受クベキ物品トシテハ、主トシ
テ「セメント」、鐵、木材等ナルモ、發電所
ニ付テハ發電機、水車、調節機等ノ諸器械
ヲ豫想セラレ、其ノ免稅見込額ニ付テハ、

○議長（小山松壽君）直チニ本案ノ第二讀會ヲ開
キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り
可決セラレントヲ望ミマス

○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

大正九年法律第五十三號中改正法律案
(關稅法、關稅定率法及保稅倉庫法等)

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

第五 青年禁酒法案 (高橋壽太郎君外
十三名提出) 第一讀會
青年禁酒法案

第一條 本法ニ於テ青年ト稱スルハ滿二十
歲以上二十五歲未滿ノ者ヲ謂フ
第二條 青年ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得
存ジマス

右ノ如キ質疑應答ノ末、討論ニ入りマシ
テ、各派代表ヨリ此ノ改正案ノ成立ニ依
リ、事業ノ促進ニ努力シ、及ビ監督モ嚴ニ
シ、一日モ早ク完成シ、日滿經濟ノ發展向
上ヲ期セラレタキ旨ヲ要望シテ贊意ヲ表サ
レマシタ、採決ノ結果本改正案ヲ適當ト認
メマシテ、全會一致原案ヲ可決致シマシタ
次第デアリマス、以上御報告申上ゲマス(拍
手)

○議長（小山松壽君）本案ノ第二讀會ヲ開
クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ
ス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシ
タ

○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

大正九年法律第五十三號中改正法律案
(關稅法、關稅定率法及保稅倉庫法等)

○議長（小山松壽君）別ニ御發議モアリマ
ス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議
案全部ヲ議題ト致シマス

第六條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者
ニ及ヒ仍ホ第二條第一項ノ規定ニ違反
シタル者ハ科料ニ處ス

第二條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ
科料ニ處ス

第三條 警察官署ハ前條第一項ノ規定ニ
違反シタル者ニ對シ戒告ヲ爲スコトヲ得

第四條 青年カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ
以テ所有又ハ所持スル酒類及ノ器具
ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢
棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムル
コトヲ得ス

第五條 第三條ノ戒告ヲ受クルコト三四
二及ヒ仍ホ第二條第一項ノ規定ニ違反
シタル者ハ科料ニ處ス

第六條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者
ナルトキハ本法ニ依リ之ニ適用スヘキ
罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其
ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス
ル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同
居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ
業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自
己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ
免ルルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ
依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際滿二十年ニ達シタル者ニ付テハ本法ハ之ヲ適用セス

○服部崎市君 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シテ、
議長指名九名ノ委員ニ付託セラレントコトヲ
望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第

六、恩給法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

三 電氣、瓦斯又ハ動力ノ發生、傳導
又ハ供給ニ關スル事業

四 給水又ハ排水ニ關スル事業

五 貨物ノ積卸ニ關スル事業

六 平水航路ノミヲ航路定限トスル汽
船、帆船、駁舟、曳船、ランチ、不登
駁船、三十噸未満ノ漁船其ノ他船舶

七 法ノ適用ヲ受ケザル各種船舶ニ依ル
事業

八 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存
修理若ハ破壊ニ關スル事業

九 農產物、林產物又ハ水產物ノ栽培、
採取、處理又ハ養殖ニ關スル事業

十 園藝又ハ養畜ニ關スル事業

十一 物ノ清掃ニ關スル事業

十二 尸體ノ燒却ニ關スル事業

十三 獣類ノ屠殺ニ關スル事業

十四 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

十五 勘定ノ削除

十六 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

十七 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

十八 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

十九 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十一 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十二 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十三 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十四 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十五 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十六 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十七 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十八 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

二十九 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

三十 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

三十一 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

三十二 民事訴訟法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

第四十九條第一項中「三十日分」ヲ「六十
日分」ニ、「三十圓」ヲ「六十圓」ニ改ム
○服部崎市君 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、政府提出、職員健康保險法案委員ニ併
セ付託セラレントコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

タルトキ給付ヲ止ム

選任シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
補助員ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第三百五十九條ノ七 小作ニ關スル爭議
ニ付テハ争議ノ目的タル土地ノ所在地

ヲ管轄スル區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲
スヘシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ
土地所在地ノ市町村長ニ之ヲ通知スヘ

シ 前項ノ申立ハ争議ノ目的タル土地所在
地ノ市町村長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ市町村長ハ遲滞ナク
申立ニ關スル書類ヲ管轄區裁判所ニ送
付スヘシ

争議ノ目的タル土地力數個ノ區裁判所
申立ヲ受理シタル區裁判所之ヲ管轄ス
ノ管轄内ニ存スル場合ニ於テハ最初ニ
事者又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必
要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

第三百五十九條ノ九 判事及補助員ハ當

事者ニ應シ出張シテ和解ヲ爲スコトヲ得

第三百五十九條ノ十 和解手續ハ之ヲ公

開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ
傍聴ヲ許スコトヲ得

第三百五十九條ノ十一 訴ノ提起アリタ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十二 和解成立シタル

和解部ノ和解ニ付スルコトヲ得

第三百五十九條ノ十三 和解調ハサル場

合ニ於テハ申立人ハ相手方ノ承諾ナク
シテ其ノ申立ヲ取下クルコトヲ得

前項ノ取下ヲ爲ササルモノニ付テハ其
ノ目的ノ價額ニ從ヒ和解ノ申立アリタ

和解調書ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有

ス

第三百五十九條ノ十四 和解申立手數料

日當及止宿料ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十五 和解申立カ通常

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ六ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ七ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

ルトキニ於テ其ノ區裁判所又ハ其ノ區
裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所
ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ區裁判所ハ遲滞ナ
シ ク訴訟記録ヲ地方裁判所ニ送付スヘ

シ 第三百五十九條ノ十四 和解申立手數料

第三百五十九條ノ六ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ七ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ八ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ九ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十一ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十二ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十三ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十四ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十五ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十六ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十七ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三百五十九條ノ十八ノ旅費、日當及

止宿料ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

十、理容師法案、第一讀會ヲ開キマス
第十一 理容師法案（山川賴三郎君外四
名提出） 第一讀會
理容師法案

理容師法
第一條 理容師ハ頭髮、鬚鬚ノ剪剃、結
髮、美毛術、美爪術又ハ美顏術ヲ爲スコ
トヲ業トスルモノトス

第二條 理容師タラムトスル者ハ理容師
試験ニ合格シ行政官廳ノ免許ヲ受クル
コトヲ要ス

理容師試験及免許ニ關スル專項ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノニ該當スル者ニハ
理容師ノ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ
一 精神病者、瘋癲病者又ハ結核、癩
二 其ノ他不適當ト認シタル者

第四條 理容師營業所ヲ開設セムトスル
トキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
前項ニ規定スルモノノ外營業所ニ關ス
ル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 理容師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
家族其ノ他ノ者ヲシテ業務ニ從事セシ
ムルコトヲ得

第六條 精神病者、癩癲病者又ハ結核、
癩、「トラホーム」其ノ他ノ傳染性疾病患
アル者ハ作業ニ從事シ又ハ從事セシム
ルコトヲ得ス

第七條 行政官廳ハ當該官吏ヲシテ隨時
營業所ヲ臨檢セシムルコトヲ得

第八條 第一條第一項、第四條第一項、
第六條及第七條第二項ノ規定ニ違反シ
又ハ第八條乃至第十條ノ規定ニ依ル命
令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又
ハ科料ニ處ス

第十五條 理容師ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十條 行政官廳ハ左ノ各號ノ一一該當
スルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ其
ノ停止ヲ命スルコトヲ得
一 他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認
メタルトキ

二 衛生、風俗其ノ他公安ヲ害シ又ハ
害スル虞アリト認メタルトキ

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
ニ違反シタルトキ

圖ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ警察官署
ノ管轄區域ニ理容師組合ヲ設立スヘ
シ但シ理容師組合ニ屬スル理容師ノ數多
キトキハ同一警察官署ノ管轄區域内ニ二
以上ノ理容師組合ヲ設立スルコトヲ得
ノ管轄區域内ニ理容師組合ヲ設立スヘ
シ但シ理容師組合ニ屬スル理容師ノ數多
キトキハ同一警察官署ノ管轄區域内ニ二
以上ノ理容師組合ヲ設立スルコトヲ得
圖ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣理容師組合聯合會ヲ設立
スヘシ

道府縣理容師組合聯合會ハ日本理容聯
盟ヲ設クルコトヲ得

第十三條 理容師組合、道府縣理容師組
合聯合會及日本理容聯盟ノ設立手續、
機關ノ組織及監督其ノ他必要ナル事項
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 理容師組合ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ道府縣理容師組合聯合會ヲ設立
スヘシ

第十一條 第一條第一項、第四條第一項、
第六條及第七條第二項ノ規定ニ違反シ
又ハ第八條乃至第十條ノ規定ニ依ル命
令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又
ハ科料ニ處ス

第十五條 理容師ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十九條 行政官廳ハ衛生上其ノ他必要ア
リト認ムルトキハ理容師ニ對シ命令ヲ
發スルコトヲ得

第六條 第二項ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十九條 行政官廳ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十九條 行政官廳ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十九條 行政官廳ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十九條 行政官廳ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十九條 行政官廳ハ其ノ戸主、家族、同居
人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關
シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違
反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ
故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依ル營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術試験ニ合格シタル者ハ本法ニ依ル理容師ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

○服部崎市君 本案ハ趣旨辯明ヲ省略シテ、八木逸郎君外一名提出、民族優生保護法案委員ニ併セ付託セラレントラ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十一、砂鑛法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

第十一 砂鑛法中改正法律案(原玉重君外一名提出) 第一讀會
砂鑛法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

第九條 削除

○服部崎市君 本案ハ趣旨辯明ヲ省略シテ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案ノ委員ニ併セ付託セラレントラ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十二、砂鑛法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

第十二 計理士法中改正法律案(中野治介君外二名提出) 第一讀會
計理士法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十二、計理士法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

第十三 檢查計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第十四 檢査計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第十五 檢査計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第十六 檢査計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第十七 檢査計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第十八 檢査計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第十九 檢査計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會
検査計理士法案

第八條 計理士ハ主務官廳所在地ニ計理士會ヲ設立スベシ但シ主務大臣ノ指定シタル地域ニ於テハ別ニ計理士會ヲ設立スルコトヲ得

第八條ノ二 計理士會ハ計理士ノ風紀ヲ保持シ業務ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第八條ノ三 計理士會ハ法人トス

第八條ノ四 計理士會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第八條ノ五 計理士會ハ會則ヲ定メ左ノ事項ヲ規定スベシ

一、役員ニ關スル事項

二、會議ニ關スル事項

三、計理士ノ風紀保持ニ關スル事項

四、會費ノ徵收ニ關スル事項

五、謝金及手數料ニ關スル事項

六、會員入退會ニ關スル事項

七、其ノ他會務ニ處理ニ必要ナル事項

會則ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ會則ノ變更ニ付亦同ジ

第八條ノ六 計理士會設立ノ手續、機關ノ組織及監督ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條ノ七 計理士ハ計理士會ニ加入シタル後ニ非ザレバ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ

第九條第一項中「本法ノ規定ニ違反シタルキ又ハ品位ヲ失墜スベキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ」ヲ「本法又ハ計理士會ノ會則ニ違反スル行爲アリタルトキハ」ニ改ム

第十條ノ二 計理士會ハ計理士ニ對シ懲罰ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

一一、帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所

二、檢査計理士試補トシテ二年以上ノ實務修習ヲ爲シ且考試ヲ經タルコト

三、實務修習ヲ爲シ且考試ヲ經タルコトヲ以テ之ヲ定ム

四、破産者ニシテ復權ヲ得サル者

五、檢査計理士タラムトスル者ハ検査計理士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 左ノ各號ノニ該當スル者ハ検査計理士タル資格ヲ有セス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二、前號ニ該當スル者ヲ除クノ外本法、辯護士法、辯理士法又ハ計理士法ニ依リ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ受クルコトヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三、懲戒處分ニ依リ免官若ハ免職セラレタル者、辯護士法ニ依リ除名セラレタル者又ハ本法、辯理士法若ハ計理士法ニ依リ業務ヲ禁止セラレタル者但シ免官、免職、除名又ハ業務ヲ止ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二、前號ニ該當スル者ヲ除クノ外本法、辯護士法、辯理士法又ハ計理士法ニ依リ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ受クルコトヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三、檢査計理士ノ登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ以テ之ヲ定ム

四、檢査計理士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五、檢査計理士ノ登錄トシテ二十圓ヲ納付スルコトヲ要ス

六、檢査計理士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會若ハ地方議會ノ議員ト爲リ又ハ公務所ヨリ特ニ任命セラレ若ハ囑託セラレタル職務ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

ヲ有セズ

一 皇室ニ對スル罪、犯人藏匿及證憑

滅滅ノ罪、通貨偽造ノ罪、文書偽造

ノ罪、有價證券偽造ノ罪、印章偽造

ノ罪、偽證ノ罪、誣告ノ罪、竊盜及

強盜ノ罪、詐欺及恐嚇ノ罪並横領ノ

罪ヲ犯シタル者

二 前號ニ掲ガタル以外ノ罪ニ囚リ禁

錠以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ刑

コトナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ

在ラズ

三 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者

ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クル

コトナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ

四 懲戒ノ處分ニ因リ免官若ハ免職セ

ラレタル者、本法ニ依リ除名セラレ

タル者又ハ辨理士法若ハ計理士法ニ

依リ業務ヲ禁止セラレタル者ニシテ

免官、免職、除名又ハ業務禁止後二

年ヲ經過セザル者

五 禁治產者又ハ準禁治產者

附則

本法ハ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ施行
辯護士法中改正法律案

辯護士法中改正正規

辯護士試補ノ實務修習ハ辯護士試補ヲ

指導辯護士ニ配屬シテ之ヲ行フ

第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

辯護士試補ノ實務修習及考試ニ關スル

事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

辯護士試補ノ實務修習ハ辯護士試補ヲ

指導辯護士ニ配屬シテ之ヲ行フ

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

辯護士試補ノ實務修習及考試ニ關スル

事項ハ司法大臣之ヲ定ム

第二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

辯護士試補ノ實務修習又ハ辯護

人代理ヲ命ズルコトヲ得

訴訟復代理又ハ辯護人代理ヲ命ゼラレ

タル辯護士試補ハ其ノ事件ニ付訴訟代

理人又ハ辯護人ト同一ノ權限ヲ有ス

第四條中「前一條」ヲ「第二條及第三條」ニ

改ム

○ 議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
○ 議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
○ 議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十八、愛國航空獎券發行ニ關スル法律案ノ
第一讀會ヲ開キマス

第十八、愛國航空獎券發行ニ關スル法律案（安藤孝三君外一名提出）

第一讀會

第一條（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十八、愛國航空獎券發行ニ關スル法律案ノ

第六條 抽籤ノ日ヨリ二年ヲ經過スルトキハ當籤獎券ノ所有者ハ當籤金ノ支拂

キハ當籤獎券ノ所有者ハ當籤金ノ支拂

ヲ請求スルコトヲ得

第七條 愛國航空獎券ヲ發行セムトスルトキハ少クトモ發行日ノ二週間前ニ發行總數、發行ノ日時、抽籤ノ日時、當

籤券數並當籤金額及其ノ等級ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ公表スヘシ

依リ其ノ結果ヲ公表スヘシ

第八條 第一條ノ法人ノ理事及監事ハ愛國航空獎券ヲ所有スルコトヲ得

第九條 第一條ノ法人愛國航空獎券ヲ發行シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ收得金額ノ十分ノ三以内ニ相當スル金額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ納付スベシ

前項ノ納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ其ノ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十條 第一條ノ法人ハ愛國航空獎券ノ發行ニ依ル收得金額中前條ノ納付金

前項ノ準備資金力命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ最高額ヲ超過スルトキハ政府ハ其ノ超過額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル備資金トシテ管理スベシ

前項ノ準備資金力命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ最高額ヲ超過スルトキハ政府ハ其ノ超過額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル備資金トシテ管理スベシ

前項ノ準備資金力命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ最高額ヲ超過スルトキハ政府ハ其ノ超過額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル備資金トシテ管理スベシ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收ス

ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七條 第一條ノ法人ノ役員カ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十八條 第一條ノ法人ノ役員ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 第一條ノ法人ノ役員カ抽籤ニハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減免スルコトヲ得

第二十條 第一條ノ法人ノ役員カ抽籤ニハ其ノ刑ヲ減免スルコトヲ得

關シ不正ノ行爲アリタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處シ其ノ利

認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ愛國航空獎券發行停止若ハ制限又ハ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

第一條ノ法人ニ非スシテ類似ノ獎券ヲ發賣シタル者

二 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

三 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

四 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

五 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

六 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

七 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

八 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

九 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十一 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十二 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十三 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十四 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十五 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十六 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十七 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十八 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

十九 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十一 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十二 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十三 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十四 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十五 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十六 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十七 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十八 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

二十九 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

三十 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

三十一 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

三十二 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ規則ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十八條 第二項中「二個」ヲ「三個」ニ改ム

第十九條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十一條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十二條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十三條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十四條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十五條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十六條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十七條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十八條 第二項中「三個」ニ改ム

第二十九條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十一條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十二條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十三條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十四條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十五條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十六條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十七條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十八條 第二項中「三個」ニ改ム

第三十九條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十一條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十二條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十三條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十四條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十五條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十六條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十七條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十八條 第二項中「三個」ニ改ム

第四十九條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十一條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十二條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十三條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十四條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十五條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十六條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十七條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十八條 第二項中「三個」ニ改ム

第五十九條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十一條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十二條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十三條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十四條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十五條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十六條 第二項中「三個」ニ改ム

第六十七條 第二項中「三個」ニ改

益ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第一十一條 第一條ノ法人ノ役員ニシテ
左ノ各號ノニ該當スル者ハ千圓以下

ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令
ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場
合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケナル者

二 第七條及第十條第一項ノ規定ニ違
反シタル者

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○服部崎市君 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シテ、
政府提出、國際電氣通信株式會社法中改正
法律案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマ
ス、讀會ヲ開キマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
十九、家畜傳染病豫防法中改正法律案ノ第
一讀會ヲ開キマス

第十九 東京農業傳染病豫防法中改正法律
案(伊禮鑑君提出) 第一讀會

家畜傳染病豫防法中改正法律案
家畜傳染病豫防法中改正法律案

第八條第一項第四號ヲ第五號、第五號ヲ
第六號トシ同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ
加フ

四 豚コレラ、豚瘧若ハ豚丹毒ニ罹リ
又ハ罹リタル疑アル家畜ノ斃屍體又
ハ殺屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防
疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ
ニ改ム

第二十四條第三項中「第五號」ヲ「第六號」
ニ改ム

○服部崎市君 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シテ、
高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
二十、公證人法中改正法律案ノ第一讀會ヲ
開キマス

第二十 公證人法中改正法律案(中野
治介君提出) 第一讀會

公證人法中改正法律案

公證人法中左ノ通改正ス

第十三條中「判事、檢事又ハ辯護士タル
ノ資格ヲ有スル者」ヲ「判事、檢事若ハ辯
護士タルノ資格ヲ有スル者又ハ十年以上
裁判所書記タル者」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○服部崎市君 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シテ、
テ、政府提出、人事調停法案委員ニ併セ付
託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
二十一、農家世襲財產法案ノ第一讀會ヲ開
キマス

第二十一 農家世襲財產法案(林平馬
君提出) 第一讀會

農家世襲財產法案

第一條 農民ノ獨立性ヲ確保スル爲自作

世襲財產ノ設定ハ登記ニ依リテ之ヲ爲
ス、仍テ日程第二十三、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十四、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十五、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十六、刑事訴訟法中改正
法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○服部崎市君 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シテ、
高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

第三條 世襲財產ノ設定又ハ自作農創設
維持ニ付國庫ヨリ資金ノ融通其ノ他ノ
補助ヲ受ケタル土地又ハ建物ハ第一條
第二項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ
要ス

世襲財產ノ登記ハ逐次之ヲ爲スコトヲ
得ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
二十、公證人法中改正法律案ノ第一讀
會ヲ開キマス

第四條 本法ノ登記ニハ登録税ヲ課セス
世襲財產ニ對シテハ租稅公課ヲ課セス

第五條 世襲財產ノ目的物ハ之ヲ變更ス
ルコトヲ得ス但シ正當ノ事由アルトキ
ハ市町村長ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコト
ヲ得

前項但書ニ依ル場合ハ遲滞ナク登記ヲ
爲スコトヲ要ス

第六條 世襲財產ハ第一條第二項ノ登記
前ニ其ノ目的物ニ付生シタル債權ヲ除
キ其ノ他ノ債權ニ依リ之ヲ差押フルコ
トヲ得ス

第七條 世襲財產ノ果實ハ收穫後十五日
以内ニ市町村長ニ届出ツルコトヲ得
前項ノ届出アリタル場合ハ届出ノ範圍
内ニ於テ戸主及其ノ家族ノ次期收穫期
マテ必要ナル食料ニ相當スルモノハ之
ヲ差押フルコトヲ得ス

第八條 世襲財產ハ之ヲ讓渡若ハ賃貸ヲ
爲シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ
正當ノ事由アルトキハ賃貸ニ限り市町
村長ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得
世襲財產ノ管理戸主之ニ任ス

第九條 世襲財產ハ分割相續ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 世襲財產存置ノ必要ナキニ至リ
タル時ハ戸主ハ親族會ノ同意及地方長
官ノ許可ヲ得テ之ヲ廢止スルコトヲ得

附 則

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第二十三、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十四、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十五、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十六、刑事訴訟法中改正
法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス

第一十三 刑事訴訟法中改正法律案
(俵孫一君外十七名提出) 第一讀會

第二十四 刑事訴訟法中改正法律案
(堀切善兵衛君外二十四名提出)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
二十二、刑事訴訟法中改正法律案ノ第一讀
會ヲ開キマス

第二十二 刑事訴訟法中改正法律案
(高橋義次君外六名提出) 第一讀會

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、政府提出、人事調停法案委員ニ併セ付
託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
二十三乃至第二十六ハ内容同一ノ議案ニア
リマスカラ、一括シテ議題ト爲スニ御異議
アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程第二十三、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十四、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十五、刑事訴訟法中改正
法律案、日程第二十六、刑事訴訟法中改正
法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス

第一十三 刑事訴訟法中改正法律案
(俵孫一君外十七名提出) 第一讀會

第二十四 刑事訴訟法中改正法律案
(堀切善兵衛君外二十四名提出)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シ
テ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案
委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

第二十五 刑事訴訟法中改正法律案

(右坂繁君外一名提出) 第一讀會

第二十六 刑事訴訟法中改正法律案

(中村高一君外一名提出) 第一讀會

刑事訴訟法中改正法律案

第二百五十二條ノ二 行政執行法ニ依リ

檢束中ノ者ニ對シテハ捜査ヲ爲スコトヲ得ス

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第

二十七、競争入札ノ取締等ニ關スル法律案

ノ第一讀會ヲ開キマス

第二十七 競争入札ノ取締等ニ關スル法律案

ノ第一讀會ヲ開キマス

法律案(福田闊次郎君提出) 第一讀會

競争入札ノ取締等ニ關スル法律案

第一條 政府、道府縣、市町村又ハ市町村組合ニ於テ各種事業ノ工事又ハ物件ノ買入賣却若ハ貸付借入其ノ他財産處分ニ關シ一般競争契約、指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲サムトスルニ當リ入札者及之カ關係者ハ談合行爲其ノ他之類似スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ政府、道府縣、市町村又ハ市町村組合一般競争契約、指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲スニ際シ競争入札ニ加ハリ又ハ契約者ト爲ルコトヲ得ス

第三條 罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 第三條ノ罪ニ依リテ檢舉セラレ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

第五條 第二百五十二條ノ二 行政執行法ニ依リ

第六條 檢束中ノ者ニ對シテハ捜査ヲ爲スコトヲ得ス

ルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前條ノ

刑ヲ科ス

第五條 官吏若ハ道府縣、市町村若ハ市町村組合ノ公吏又ハ此等ニ準スヘキ者

第六條 第二條第一號乃至第四號ニ該當スル者ヲ競争入札ニ加ハラシメ又ハ契約者タラシメタルトキハ三月以上三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下の罰金ニ處ス

第七條 村組合ニ於テ一般競争契約、指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲スニ當リ之力擔當ノ任ニアル官吏、公吏又ハ此等ニ準スヘキ者第一條ノ規定ニ違反スル行爲ナルコト又ハ當時ノ物價、勞銀、運賃等ニ比シ著シク不當ニ高價若ハ安價ナルコトヲ知リ又ハ知り得ヘカリシニ拘ラス契約ノ締結ヲ中止セシメス又ハ契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ三月以上三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下の罰金ニ處ス

第八條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第九條 懲役ニ處ス

第十條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十一條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十二條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十三條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十四條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十五條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十六條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十七條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十八條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十九條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十一條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十二條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十三條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十四條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十五條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十六條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十七條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十八條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十九條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十一條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十三條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十四條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十五條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十六條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

二月以上二年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 官吏若ハ道府縣、市町村若ハ市町村組合ノ公吏又ハ此等ニ準スヘキ者

町村組合ノ公吏又ハ此等ニ準スヘキ者

在職中其ノ職務ニ關シ請負人又ハ商人ニ不當ノ利益又ハ便宜ヲ與ヘタルノ故

ヲ以テ退職後何等ノ名義ヲ以テスルヲ

禁錮又ハ三千圓以下の罰金ニ處ス

第六條 政府、道府縣、市町村又ハ市町村組合ニ於テ一般競争契約、指名競争

契約又ハ隨意契約ヲ爲スニ當リ之力擔當ノ任ニアル官吏、公吏又ハ此等ニ準スヘキ者第一條ノ規定ニ違反スル行爲

スヘキ者第一條ノ規定ニ違反スル行爲ナルコト又ハ當時ノ物價、勞銀、運賃等ニ比シ著シク不當ニ高價若ハ安價ナルコトヲ知リ又ハ知り得ヘカリシニ拘ラス

第七條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第八條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第九條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十一條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十二條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十三條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十四條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十五條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十六條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十七條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十八條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第十九條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十一條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十二條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十三條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十四條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十五條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十六條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十七條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十八條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十九條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十一條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第三十二條 前項ノ場合ニ於テ收受シタル金錢其ノ他ノ利益ハ之ヲ沒收ス若其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二條 左ニ掲タル者ハ助産師ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 禁治産者、準禁治産者、聾者、啞者又ハ盲者

第三條 助産師試験ハ地方長官之ヲ施行ス

第四條 助産師試験ハ高等女學校卒業者又ハ之と同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ二箇年以上助産ニ必要ナル學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 地方長官ハ助産師試験ヲ受ケムトスル者又ハ助産師名簿ニ登録ヲ願出ツル者ニシテ試験又ハ登録ノ以前墮胎ノ罪、助産師ノ業務ニ關スル罪其ノ他禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違反シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ受ケシメサルコトヲ得

第六條 助産師試験ハ地方長官之ヲ管理命今ノ定ムル所ニ依ル

第七條 助産師名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

助産師名簿ニ登録ヲ受ケムトスル者ハ第一條第一號ノ學校卒業ノ證書、助產師試験合格證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

助産師名簿ノ登録事項ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

助産師試験合格證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

助産師名簿ノ登録事項ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

助産師試験ハ地方長官之ヲ施行ス

助産師試験ハ高等女學校卒業者又ハ之と同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ二箇年以上助産ニ必要ナル學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 地方長官ハ助産師試験ヲ受ケムトスル者又ハ助産師名簿ニ登録ヲ願出ツル者ニシテ試験又ハ登録ノ以前墮胎ノ罪、助産師ノ業務ニ關スル罪其ノ他禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違反シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ受ケシメサルコトヲ得

第六條 助産師試験ハ地方長官之ヲ管理命今ノ定ムル所ニ依ル

第七條 助産師名簿ハ地方長官之ヲ管理ス

助産師名簿ニ登録ヲ受ケムトスル者ハ第一條第一號ノ學校卒業ノ證書、助產師試験合格證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

助產師名簿ノ登録事項ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

助產師試験合格證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

助產師名簿ノ登録事項ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

助產師試験合格證書又ハ免許證ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

助産師其ノ住所ヲ移轉シタル爲管轄地

方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ其ノ管轄地

方廳ニ助産師名簿取消ノ登録ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ助産師名簿ノ登録ヲ願出ツヘシ

第八條 助産師廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ助産師名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第九條 助産師廢業シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ助産師名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第十條 助産師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號ヲ除ク外其ノ技術又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 助産師ハ妊娠、產婦、褥婦又ハ胎兒、初生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 助産師ハ妊娠、產婦、褥婦又ハ胎兒、初生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用ヒ藥品ヲ授與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ瞬帶ヲ切リ灌腸ヲ施スヘ此ノ限ニ在ラス

第十三條 助産師試験ノ科目及試験施行ノ方法ハ助産師試験ノ科目及試験施行ノ方法ハ

第十四條 助産師ニシテ墮胎ノ罪、助產師ノ業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニシテ墮胎トキ亦前項ニ同シ

第十五條 地方長官ハ助産師ノ業ヲ禁止又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ禁

止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十六條 助産師ニシテ三箇年間其ノ業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲、白痴又ハ癡疾トナリ其ノ業ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ助産師名簿ノ登録ヲ取消スコトヲ得

第十七條 助産師名簿ノ登録、登録ノ取消、登録事項ノ訂正並助産師業ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十八條 左ニ掲タル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 助産師名簿ニ登録ヲ受ケヌシテ助產師ノ業務ヲ爲シタル者

二 助産師名簿ノ登録ヲ取消サレタル後助産師ノ業務ヲ爲シタル者

三 助産師ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後助產師ノ業務ヲ爲シタル者

四 第四條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者

五 第九條乃至第十三條ニ違反シタル者

第十九條 第七條第四項及第八條第一項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條 本法ニ依リ地方長官ノ爲シタル處分ニ對シテハ訴願又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

產證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產婆規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條 本法施行以前ニ產婆名簿ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地

方長官ハ助産師ノ業ヲ禁止シ又ハ一年内之ヲ停止スルコトヲ得

助産師名簿登録前ニ犯シタル罪ノ發覺シタルトキ亦前項ニ同シ

第十三條 本法施行前地方長官ヨリ業ヲ問ハス業務上學位、稱號ヲ除ク外其ノ技術又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十六條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十八條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十條 本法ニ依リ地方長官ノ爲シタル處分ニ對シテハ訴願又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第

二十九、治療師法案ノ第一讀會ヲ開キマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第

二十九、治療師法案ノ第一讀會ヲ開キマス

○議長(小山松壽君) 治療師法

附則

第十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產婆規則ハ之ヲ廢止ス

第十二條 本法施行以前ニ產婆名簿ニ

登録セラレタル者ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十三條 本法施行前地方長官ヨリ業ヲ

問ハス業務上學位、稱號ヲ除ク外其ノ

技術又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ

得ス

第十四條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十六條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十八條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ助産師トシテ登録セラレタル者ハ本法施行後ト雖其

ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

○議長(小山松壽君) 本案ハ趣旨聲明ヲ省略シテ、高橋壽太郎君外十三名提出、青年禁酒法案委員ニ併せ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(小山松壽君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第

二十九、治療師法案ノ第一讀會ヲ開キマス

○議長(小山松壽君) 治療師法

